其四　三吟

軒ちかくすまくな菖蒲の匂ひかな　杜鷲
きゝみえいゝしゝはれわたる夕月　都雄
行ちかふ廣き渡りの船の出入多く　太老
たゞちゞけの身て泉子の空　鷲
むしと夜をさて人ぬすまれし旅の月　雄
ちらしゝのあられは人をう　老
秋風志ますゐにと入けつれると　鷲
ゑと秋ちとしもとしらぬ身侍　雄
柚あらみまちとさちとのなかの川　老
枯れくよのはやいよ来し　鷲
季かるとかいてるさのふ女子とる　雄
はらしのなはりかく波さのつき　老
網戸樋なる渡すめまあり煩むるを　鷲
みれいろしとかこふお撲場　雄
行處とかわ麦柿何かのむ咲てた　老
まる月代と医老のゆれきぬ　鷲
咲乃に鯛くしいくくもれ芒　雄
多をまぬまきよふはれ老寺て　老
かすむ日ち掃てとちくに挨たちく　鷲
たれるか小袖坂買のよれかか　雄
牙乃うへとされしおふてと深くみ　老
さいなり道乃し紙ぬ在くち　鷲
咲枯乃咲のちて梢のれ雲ぬ学　雄
あるふちとはしよまいの垂れ枝　老
亀と餌ともとれ鯰りえられ　鷲
鳥居なくれもふの赤りなる　雄
田一枝稔とひと節にいるる　老
おやふれのるにむつい雨上戸　鷲
名月おまるおゆきさはるふ閏年　雄
やふの薬あへあまの私はし　老
帆ふとはるえとけられ舞の佐　鷲
枚とひかれとかわかり徒衛く　雄
手まるとよみくけく志つめ拍木町　老
初と幹うしか屋てきたきく　鷲
かくは咲りあさ見ねみく五十日　雄
言よみると二人はうよふ別　老